

研究資料

当代中国刊行美術関係期刊解題(二)

鶴田武良

30、「周末」(別名「周末画報」)

嶺南美術出版社「周末」画報編輯部編集。嶺南美術出版社出版。週刊(毎週土曜日発行)。タブロイド判二ツ折四ページ。オフセット二色刷。〇・〇五元。

一九八〇年二月に隔週刊として創刊され、一九八三年四月から週刊となった。一九八四年九月一日発行の同年第三十五期が総第五百九十九期に当る。なお、一九八三年に「一九八二年合訂本(総第五十一期—総第七十七期)」が刊行された。

本紙は連環画を主とする通俗小新聞で、広州方言を用いた連環漫画「楽叔と蚱仔」、広州の著名人や同地を訪れた名士を紹介する「周末專訪」、広州の故事逸話を伝える「老広州話広州」、海外の奇談珍聞を伝える「世界奇聞」、読者の投書欄「周末信箱」、パズルの「周末晚会」などの專欄のほか、内外の名著や史実をもとにした連環画を連載している。時に「尋ね人」の記事を載せる。現在、中国各地八十数市で発売され、発行部数百万余部という。

31、「阿凡提」(別名「阿凡提画報」)

「阿凡提」画報編輯部編集(新疆・烏魯木齊市)。半月刊(毎月五日、二十日出版)。タブロイド判二ツ折四ページ。オフセット二色刷。〇・〇五元。

一九八一年二月創刊。一九八四年八月二十日発行の同年第十六期が総第八十四期に当る。

本紙は「周末」と同じように連環画を主とする通俗小新聞で、新疆の自然や社会事情を紹介する「新疆風情」、「笑話」、一口話の「諷刺与幽默」、海外の笑話を紹介する「外国幽默」などの專欄のほか、内外の史実、伝記、故事、文学をもとにし

た連環画数篇を掲載している。

32、「刺藜画報」(別名「虎刺」)

中国美術家協会貴州分会「刺藜画報」編輯部編集・出版。不定期刊。タブロイド判二ツ折四ページ。オフセット二色刷。〇・〇五元。

一九八二年一月の創刊で、一九八四年九月一日発行の同年第九期が総第二十九期に当る。

本紙は「周末」、「阿凡提」などとほぼ同じ性格の通俗小型新聞で、連環画、漫画、小品文を主とする。内容は貴州の風俗、自然を紹介する「民族風情」、海外のニュースや珍談を伝える「天南海北」、人物紹介の「人物述林」、読者の投書欄「読者信箱」などの專欄を置くほか、内外の名著や故事、伝記などをもとにした連環画数篇を掲載している。

33、「中国書画」

15 「中国書画」に同じ。

34、「中国書法」

「中国書法」編輯部編集。中国文芸連合出版公司出版。不定期刊。二十四・九×二十三・五センチ。六〇ページ。オフセット紙版一・四〇元、凸版紙版〇・九五元。

一九八二年十月に創刊され、一九八四年五月に総第三期が刊行された。内容は図版を主とし、書法家・篆刻家の略伝、書法及び篆刻の創作論、歴史、流派、技法、理論研究、新発見の墨迹・碑刻の紹介、現代書家及び篆刻家の作品紹介、国外書法界の消息などを載せる。例えば総二期(一九八三年五月刊行)の内容は碑刻書法芸術、古代書論注釈、現代書家・篆刻家の作品と研究、慶祝党的十二大書法展覽作品選、中日書法芸術交流展覽中方作品選、書法理論探討、国外書壇紹介(飯島春敬著「日本書道史概観の中文訳」)に大きく分けられ、それぞれに乃至数篇の論文を付している。

本誌は中国書法家協会が主辦するもので、中国書法界の動向を知る上に最も重要

な期刊物である。

35、「書法」 CALLIGRAPHY

「書法」編輯部編集。上海書画出版社出版。隔月刊。B5判。六十四ページ。定価明記せず。

一九七八年七月創刊、一九八四年第三期が総第三十六期に当る。内容は書法、篆刻に関する研究論文、創作及び教育法、書法篆刻知識、古今の書法、篆刻作品の紹介を主とする。例えば総第三十六期は古代書法（石鼓文試読、徐浩書「朱巨川告身」）、現代書家（介紹湖北老書法家黃亮）、文物紹介、篆刻論著選読、講座（辺款の刻し方）などの文章と古代書法（石鼓文、徐浩「朱巨川告身」）、現代書法（吳昌碩、王福庵他）、明清篆刻、現代篆刻などの図版ページから成る。本誌は業余書法家、書法愛好家を主な対象にしたものといえよう。

36、「書法研究」

「書法」編輯部編集。上海書画出版社出版。不定期刊。二〇・一×十四・一センチ。百二十四ページ（図版なし）。〇・三八元。

一九七九年五月創刊。本誌は書法（篆刻をも含めて）研究の専門誌で、内容は書法理論、書法史、書法家、碑帖考証、金石篆刻に関する研究などを主とする。例えば第五輯（一九八一年三月発行）には任政「隸書概論」、王蓮「章草典型概述」、関祥徳「草書浅見」、潘岳「方筆と円筆」、姜澄清「書法はどのような性質の芸術か」、顧峰「雲南碑刻から書法芸術を見る」、張友椿「翰香館法帖議」、王壮弘「崇善校筆記」、老卉「永字八法を談ず」、单晓天・張用博「來楚生篆刻芸術の章法二」、聿明「漫話『辺款』」、沈柔堅「中日書法と友誼」、「現代書法の流派」（鈴木史郎著の中文訳）、「書法小辞典（工具材料類・硯）」などを載せる。

37、「西泠藝叢」

西泠印社編輯部編集。西泠印社出版。不定期刊。二五・〇×二五・〇センチ。三十六ページ。一元。

一九七九年二月創刊。本誌は図版を主にして書法、篆刻に関する論考及び書家、印人の評伝を扱い、間々、書家、印人の画業をも紹介する。なお第三期は「西泠印社成立七十五周年大会専刊」、第九期（一九八四年七月発行）は「紀念吳昌碩誕生一百四十周年専刊」に当てられている。

38、「鄧石如研究」

中国書法家協会安徽分会編集・出版。不定期刊。B5判。百十ページ（うち図版十二ページ）。定価明記せず。

一九八三年一月創刊。第一輯は資料専輯で、王石城「鄧石如書法を論ず」、穆孝天「鄧石如の書法芸術成就を論ず」、唐大笠「鄧石如の書法及篆刻試論」、孟澄「鄧石如の篆刻芸術」、白手「鄧石如印譜未見の印章」、老卉「碑学を提唱する書法著作二部を談ず」、穆孝天輯「鄧石如資料滙編」、金杏村「鄧石如行年考」、周夢莊「鄧石如年譜」のほか、書法十三幅、篆刻二十方を図版十二ページに収める。

39、「美術縦横」美術史論叢編

中国美術家協会江蘇分会編集。江蘇人民出版社出版。不定期刊。A5判。二百六十八ページ。〇・七八元。

一九八二年一月創刊。本誌は古今、内外のあらゆる美術—絵画、書法、金石、彫刻、工芸、建築—に関する研究の発表の場として創刊されたもので、第一輯は二十三篇の論文を芸壇評論、革命美術史料、原始芸術、揚州画派、画家伝記、書法、談芸録、古代建築、明画史料、調査研究の項目に分けて収める。中に劉汝醴「印象派に關して」、劉百余「欧州原始芸術」があり、画家伝記には欧米人著作のジョット、ダ・ヴィンチ、テイツィアーノなどの伝記の中文訳を載せるなど、内容は広範囲にわたっている。

40、「美術史」

現在、刊行準備中。

41、「文物」

文物編輯委員會編集。文物出版社出版。月刊。B5判。九十六ページ。

本誌はもと一九五〇年一月、「文物参攷資料」（月刊）として創刊された。当時は文物参攷資料編輯委員會編集、文化部社会文化事業管理局出版、B6判、縦組、每号百数十ページであったが、一九五四年第一期からA5判となり、翌々一九五六年第一期からB5判、横組とし、編輯は同じままで出版が中国古典芸術出版社に移った。さらに一九五九年第一期から文物編輯委員會編集、文物出版社出版となり、同時に誌名を「文物」と改めた。創刊以来、月刊として刊行を続けたが、文革の激化に伴い、一九六六年第五期（総百八十七号）を刊行して停刊、一九七二年一月（総百八十八号）から再び月刊として復刊した。

内容は出土文物及び伝世文物の紹介並びにそれらに関する研究発表を主とし、重要な考古調査、発掘の報告を掲載している。解放後の出土文物、考古調査の成果を知る上で、「考古」とともに欠くことのできない重要な期刊物である。

42、「考古」

「考古」編輯部編集。科学出版社出版。月刊。B5判。九十六ページ。

本誌は一九五五年一月、「考古通訊」として創刊された。当時は隔月刊、考古通訊編輯委員會編集、科学出版社出版、A5判、每号九〇ページ前後であった。一九五九年第一期（総第三十二期）から「考古」編輯委員會編集となり、誌名を「考古」と改め、月刊とし、判型もB5判となった。さらに一九六一年第四期から考古雑誌社編集・出版となった。文革の激化に伴い、一九六六年第五期（総百十七期）を刊行して停刊、一九七二年一月、考古編集部編集、科学出版社出版、隔月刊として復刊し同年第一期（総百十八期）を刊行した。一九八三年第一期（総百八十三期）から中国科学院考古研究所考古編輯委員會編集となり、同時に月刊となった。なお、一九七三年第一期から年度毎の通しページを付している。

内容は考古調査、発掘の報告を主とし、出土文物の紹介及びそれらに関連する研究発表を掲載するもので、解放後の考古発掘の成果を知る上に「文物」とともに重要な期刊物である。

43「故宫博物院院刊」PALACE MUSEUM JOURNAL

故宫博物院院刊編輯委員會編集。文物出版社出版。季刊。B5判。九十六ページ。

本誌は一九五八年に創刊第一期を、一九六〇年三月に総第二期を刊行した後、停刊し、一九七九年二月に季刊として復刊、同年度第一期（総第三期）を刊行した。

本誌は故宫博物院の歴史及び収蔵品の研究・紹介を主とするもので、内容は歴代絵画、彫塑、法帖、法書、篆刻、銅器、陶器、琺瑯、金銀器、木竹器、染織、刻絲、漆器、家具、楽器、牙彫などの美術工芸品から、古文字、文学、戯曲、音楽、舞踏などの芸術、明清宮廷史、人物、史迹、典章制度、古籍版本、古建筑、古代庭園、中外文化交流史、中外科学技術交流史、さらに文物鑑定、博物館学、文物保存修復技術、装璜にまでわたっている。

44、「文博」RELIQS AND MUSEOLOGY

文博編輯部編集。陕西人民出版社出版。隔月刊。B5判。百ページ前後。〇・六〇元。

本誌は陝西省博物館の主辦するもので、一九八四年七月に創刊、同年に総第三期まで刊行した。一九八五年第一期（一月刊行）が総第四期に当る。

本誌は文化財及び博物館学に関する総合的期刊物であり、内容は主に陝西省内の考古調査、文化財・古蹟の研究及び紹介、革命文化財及び遺蹟の調査と研究、博物館蔵品の研究及び紹介、博物館学研究、文化財保護及び管理、重点文物保護單位の紹介・研究、国外文化財・博物館の消息などである。総第四期には秦俑學術討論會での発表が特集されている。

なお、総第一期から総第三期までは誌名の英訳を RELIQS AND ANTIQUITIES としていた。

45、「中原文物」Relics from Central Plain

中原文物編輯部編集・出版。季刊。B5判。百ページ前後。〇・六〇元。
一九七七年創刊。一九八四年第四期が総第三十期に当る。

本誌は河南省博物館の主辦するもので、河南省の文化財及び博物館学に関する総合的期刊である。内容は主に河南省内の考古調査、文化財・古蹟の研究及び紹介、革命文化財・遺蹟の調査研究、河南省博物館蔵品の紹介・研究、重点文物保護単位の紹介・研究、文化財保護技術に関する研究、省内博物館の消息などである。なお、一九八一年十月に特刊「河南省考古学論文選集」を刊行した。

46、「北京文物与考古」

北京歴史考古叢書編輯組編集・出版。不定期刊（年刊カ）。B5判。三百ページ前後。定価表示無。

一九八三年に創刊、総第一輯を刊行した。

本誌は北京の歴史、考古調査、文化財、古蹟、民俗などを対象とするもので、北京研究の総合的期刊である。

47、「文物集刊」

文物編輯委員会編集。文物出版社出版。不定期刊。B5判。ページ数及び定価不同。

「集刊一」（百五十六ページ、一・二〇元）は一九八〇年一月に「長江下游新石器時代文化学術討論會論文集」として、「集刊二」（二百二十一ページ、一・七〇元）は同年九月に、「集刊三」（二百九十五ページ、二・六五元）は一九八一年三月に「江南地区印紋陶問題学術討論會論文集」として刊行された。

48、「南京博物院集刊」 NANJING MUSEUM JOURNAL

南京博物院編集・出版。年刊。B5判。百数十ページ。定価一元一・三〇元（不同）

一九七九年創刊。現在は年刊であるが、将来、半年刊の計画がある。

本誌は南京博物院（一九五〇年開館）の收藏品及び江蘇省の歴史、考古、民俗の研究を主な対象とするもので、内容は歴代絵画、法書、彫刻、陶器、工芸、建築などの美術から歴史、考古、民俗、中外交流史、地理、博物館学、文化財修復保存技術、

さらに江蘇地区の解放戦争に関する論文までかなり広範にわたっている。

49、「上海博物館集刊」

上海博物館集刊編輯委員会編集。上海古籍出版社出版。年刊カ。B5判。二百ページ前後。三元。

本誌は一九八一年七月に「上海博物館集刊第一期」として、上海人民出版社から刊行されたが、第二期（建館三十周年特集）から年刊の形式にかえて、「上海博物館集刊一九八二」（一九八三年七月刊）として発行された。内容は上海博物館の收藏品を主な対象とし、絵画、法書、法帖、青銅器、陶器、工芸、甲骨文、璽印、古籍版本などの研究、上海地区の考古調査、歴史、地理などに関する論文を収める。

50、「藝苑掇英」 Gems of Chinese Fine Arts

上海人民美術出版社編輯・出版。不定期刊。B4判。五十ページ。
一九七八年七月創刊、一九八四年四月に第二十四期を刊行した。

本誌は故宮博物院、上海博物館、南京博物院、蘇州博物館、遼寧博物館などを始め、各地の博物館蔵品の歴代絵画、法書、法帖を図版によって紹介するもので、一部に短文を付している。時に石窟寺壁画や彫刻を紹介することもある。第四期（一九七九年三月刊）は故宮博物院、第五期（一九七九年七月刊）は南京博物院、第六期（一九七九年十月刊）は吉林省博物館、第八期（一九八〇年三月刊）は揚州画派、第九期（一九八〇年七月刊）は四川省博物館、第十期（一九八〇年十月）は虚谷・任伯年・蒲華、第十二期（一九八一年四月刊）は山東省博物館、第十三期（一九八一年七月刊）は故宮博物院藏明画、第十四期（一九八一年十月刊）は広東省博物館、第十六期（一九八二年四月刊）は広州美術館、第十七期（一九八二年七月）及び第十九期（一九八三年一月刊）は八大山人書画、第十八期（一九八二年十月刊）は浙江省博物館、第二十期（一九八三年四月刊）は安徽省博物館、第二十一期（一九八三年七月刊）は吳昌碩・齊白石・陳師曾、第二十二期（一九八三年十月刊）は遼寧省博物館、第二十三期（一九八四年一月刊）は周懷民收藏書画の特集にあてられている。

51、「敦煌研究」 The Dunhuang Research

敦煌文物研究所編集。甘肅人民出版社出版。年刊。B5判。百数十ページ—約二百ページ。二・七〇元—三・七〇元。

一九八二年六月に「試刊第一期一九八一年」が、一九八三年二月に「試刊第二期一九八二年」が、創刊号（総第三期）が一九八三年十二月に刊行された。

本誌は敦煌文物研究所における敦煌研究の成果を発表するもので、試刊第一期には壁画や彫塑に関する研究論文七篇、碑刻の研究二篇、莫高窟の歴史に関するもの二篇、第七十一窟烟燻壁画清洗試験報告一篇など十六篇を、試刊第二期には一九八二年に日本で開催された「敦煌壁画展」のために書かれた段文傑「敦煌壁画の様式の特徴と芸術的成果」、李其瓊「われわれはどのようにして敦煌の壁画を模写したか」及び展示品六十三点の解説と壁画や碑文、敦煌文学に関する論文、海外の学界消息、文献目録など計十篇を収める。

52、「敦煌学輯刊」

蘭州大学敦煌学研究組編集・出版。不定期刊。B5判。百数十ページ。

一九八〇年二月に創刊、第一集を刊行した。

本誌は誌名の通り敦煌学を対象とするもので、内容は敦煌の歴史、地理、莫高窟の歴史、絵画、彫刻、敦煌遺書、敦煌文学、仏教などに関する研究論文である。

なお、蘭州大学敦煌学研究組は一九七九年一月に同大学歴史系の有志が組織したもので、同大学研究者を中心に甘肅省図書館の有志が参加し、敦煌文物研究所とも連係している。

53、「世界美術」

4、「世界美術」に同じ。

54、「美術譯叢」

浙江美术学院「美術譯叢」編輯部編集。浙江人民美術出版社出版。季刊。B5判。八〇ページ。〇・七五元。

本誌の前身は一九五六年創刊の「美術理論資料」で、同誌は一九五七年に停刊し、一九七八年に「国外美術資料」と改題して復刊したが、さらに一九八〇年に「美術譯叢」と改称した。本誌は創刊以来の誌名が示す通り、国外での美術に関する研究論文を紹介する資料的性格の期刊で、主に外国人の著述になる中国及び外国美術に関する論文を中文訳で紹介するものである。例えば総第五期（一九八一年第二期）には鶴田武良「吳昌碩評伝」（一九七六年、講談社刊「吳昌碩」収載論文）の中文訳をはじめ、「マックス・シュワビンスキー」、「現代英国芸術」、「二十世紀アメリカ芸術」、「ロダン」など十三篇の中文訳論文を収めている。

55、「裝飾」工藝美術叢刊

中央工藝美术学院「裝飾」編輯委員会編集。人民美術出版社出版。不定期刊。二六・〇×二十三・二センチ。六〇ページ。一・八〇元。

一九五八年九月に隔月刊として創刊され、一九六〇年五月に総第十一期を刊行したのち停刊し、一九八〇年六月に不定期刊の工藝美術叢刊として復刊され、一九八三年十月に第六輯が刊行された。

本誌は工藝美術の制作、研究、教育に従事する人たちと工藝美術愛好家を対象とするもので、内容は日用輕工業品、染織、服飾などの日用工藝美術、手工芸品、書籍装帧、商品包装、建築裝飾、民間美術、外国工藝美術に関する論文、国外文献の中訳文、設計などを主とし、図版を豊富に使っている。例えば第五輯には江豊「民間美術を重視しよう」を巻頭に置き、王瑞章「継統と発展のために」、諸葛鎧「律動—反復と漸変—平面設計形式規律初探」、胡美生「古彩芸術」、王連海「綉苑一斑」、李当岐「皆川泰蔵の染色芸術」、孔祥義「ナイジェリアの芸術彫刻と古代文明」、金宝昇「湖北民間陶器」、李安寧「巴且木紋様浅探」、魯岩「漫談火柴貼画」などの文章のほかに「貴州学習民間工藝美術展覽作品選」、「アメリカ・コロンビア美術設計学院作品在京展出」、「漢代壙磚范模」、「職業工作服」などの図版ページを置く。

（以下次号）